

100年後も元気なまちへ、 5つの視点で地方分散型社会の実現を

新年おめでとうございます。
皆さまにおかれましては、

皆さまにおかれましては、
幸多き初春をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

未だ続く新型コロナウイルス
感染症の影響に、感染
を防ぎながら日常生活、社
会活動、経済活動を続けて
いくため、ワクチン接種や
3密の回避など、感染予防
拡大防止対策にご理解、ご
協力をいただいております
ことに対しまして心から感
謝申し上げます。

このような状況の中で、
昨年は3年ぶりに赤れんが
ハーフマラソンのリアル開
催や地域行事の再開、学校
生活においても宿泊を伴う

修学旅行の実施など、感染
対策をしながら少しずつコ
ロナ禍前の日常を取り戻し
てまいりました。

赤れんがパークにおいて
は、Park.PFI制度を
活用した民間活力による運
営が開始され、西地域では
港周辺とまちなかをつない
でまちの活性化を進める「み
なとオアシス京都舞鶴うみ
とびら」が登録されました。

また、昨年は大浦地域と
加佐地域に活性化センター
を開設し、地域と一体になっ
て魅力ある地域づくりを推
進したほか、舞鶴市文化親
善大使の田中彩子さん、エ
ル・システムジャパン、舞
鶴子どもコーラスと「音楽

を通して子ども達に生きる
力を育むまちづくり」協定
を締結するなど、幅広い世
代が心豊かに暮らせるまち
づくりを進めてまいりまし
た。

新型コロナウイルス感染
症の影響で、生活や経済活
動に必要な物資の安定供
給、サプライチェーンリス
クが懸念される中、都会と
比較して3密を回避しやす
く、食料、エネルギーなど
を創出できる地方都市の強
みを生かし、東京一極集中
から脱却し、大都市と地方
都市が共存する地方分散型
の社会を実現することが極
めて重要であるとの認識が
広がっています。

これまで「ITを活用した
心を通う便利で心豊かな田
舎暮らしの実現」によって、
地域が有する機能、魅力を
磨き上げ、多様な連携を生
かすことで、地域が活性化
する、持続可能な地方都市
圏を構築することができ
ることを全国に示したい、本
市のまちづくりを地方分散
型社会のモデル都市にし
たいとの思いで数々の施策を
進めてまいりました。

こうした中、本年は市制施
行から80周年を迎えること
もに、第7次総合計画後期
実行計画がスタートする節
目の年です。

この地域が50年後、100
年後も国にとって重要な地
域であり続け、市民の皆さ
まが誇りを持って住み続け
られるまちづくりには、現
状をしっかりと把握する中で、
将来のあるべき姿を明確に
示し、その実現のために、
今何をすべきかを考え、実
践していくことが必要です。
そのためにも、これから
求められる「デジタルトラ

ンスフォーメーションの推
進」、「グリーントランス
フォーメーションによる地
域経済の振興」、「地域コミュ
ニティーの活性化」、「少子
化対策の推進」、「感染症対
策」の5つの視点が重要で
す。この5つの視点をしっ
かり取り入れ、これまで取
り組んでまいりました「心
豊かに暮らせるまちづく
り」、「安心のまちづくり」、
「活力あるまちづくり」の3
つのまちづくりの取り組み
成果を最大限に生かし、未
来起点のバックキャスト型
のまちづくりを進めてま
いますので、本年も変わら
ぬお力添えを賜りますよう
お願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さ
まのますますのご多幸を心
からお祈り申し上げます、
新年のごあいさつといたし
ます。

舞鶴市長

多々見 良三

